

委員会調査(研修)報告書

NO.

令和 6 年 11 月 22 日

胎内市議会議長

八 幡 元 弘 様

(報告者) まちづくり常任委員会

委員長 増子 達也

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、
議会会議規則第 110 条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和6年11月21日 至 令和6年11月21日 泊 日 (日間)	調査・研修 場 所	1. 胎内スキー場 2. ロイヤル胎内パークホテル 3. 中条共創の森オープンイノベーションラボ (NOiL)
調査・研修 事 項	1. 胎内スキー場 ①駐車場の修繕について ②ロマンスリフト支柱移転について 2. ロイヤル胎内パークホテル グランピング施設について 3. 中条共創の森オープンイノベーションラボ (NOiL) 産官学連携拠点施設の概要と活用について		
調査・研修 出席者(参加者)	議員：増子達也、丸山孝博、渡辺宏行、天木義人、渡辺秀敏、 森本将司、坂上隆夫 事務局：高橋知也参事、新保斎主任		
相手方(対応者)	1. 胎内スキー場 増子和弘課長、齋藤紀仁係長 2. ロイヤル胎内パークホテル 増子和弘課長、齋藤紀仁係長 3. 中条共創の森オープンイノベーションラボ (NOiL) 石川充子所長、 小久保様		

調査の結果または概要

1. 胎内スキー場

① 駐車場

駐車場の整備については、2か年計画であり、昨年度（令和5年度）はロジ前と第二駐車場の整備を行い、本年度（令和6年度）は入口付近と川合集落前の整備を行った。収容可能な最大台数は2,000台となる。

② ロマンズリフト支柱移転

現地に行くのは困難なため、リフト乗り場付近にて資料をもとに説明を受けた。工事内容は、ロマンズリフトの支柱土台が、がけ崩れにより不安定で危険な状態であるため、その付近に新しく支柱を建設し、旧支柱を撤去する工事である。工事前に2つあった支柱は既に撤去されており太く安定した1本の支柱に変わった。

2. グランピング施設

工事中のため、完成イメージ用の資料をもとに説明を受けた。令和7年1月末を完成予定としている。プール跡地は、現在のところむき出しのコンクリートが一面に広がる約405㎡の床面となり、現在は周囲の排水用水路の工事を行っていた。トイレは現在あるものを使用するとの事で、角にはサウナになる予定の小ぶりの建築物があった。敷地の約1/3程度はウッドデッキを設置し、その両端にドーム型のテントを1張りずつ計2張りを設置する予定との事だった。料金は大人1名30,000円を予定していて、料金には食事、ワイン（胎内高原ワインを除く）や入浴料が含まれる。

3. 中条共創の森オープンイノベーションラボ（NOiL）

■ 名称について

正式名称は「Nakajo Open-innovation Laboratory」で、その頭文字を取ってNOiLという名称使っている。

■ 目的

JX社が世界的脱炭素の潮流を受け、環境対応事業を推進するサステナブル事業推進部を設立し、産官学との協業を目的とした施設として計画された。

■ 施設について

令和6年5月竣工した新しい施設であり、環境に配慮した建物で、施設には3つの発電施設がある。風力発電、太陽光発電、地熱発電を利用し、施設の73%の省エネルギーを実現しているほか、27%の創エネルギーを実現しZEB認証を取得している。

- ・高気密高断熱である。
- ・高い意匠性である。
- ・足湯がある。
- ・夜にライトアップしている。

※ZEBとは：Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で、「ゼブ」と呼びます。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことです。

調査の所見・感想

1. スキー場の駐車場は以前の舗装の悪さを見ている分、見違えるように綺麗になり感動した。以前の凸凹や破損は完全に修復されており（古いアスファルトは一度剥がして打ち直しされている）仕上がりも思っていた以上であった。

収容する台数は最大で2,000台との事だが、以前のような舗装と現在では収容する車の台数も違って来るだろうと思う。

一方、第三駐車場は、一部状態が悪い場所もあるのだが、今回は整備されず（視察なし）今後の課題であると感じている。

支柱は直接見えなかったが、資料をもとに説明され、安全に運転できるように復旧されたことが良く理解できた。

2. ロイヤル胎内パークホテルの旧プールはほとんど跡形もなくなり、新しい施設になると思わせるには十分な状態であった。資料をもとに説明されたが、現地はフラットなコンクリートの床面であったため、資料にある完成形のその情景を思い浮かべる事が容易にできた。

雪深い冬季も営業するとの事で、除雪や排雪などが大変だなと感じた一方、雪がしんしん降るドームテントの中で、白一色の絶景を見ながら胎内高原ワイン（別料金）を飲むのも贅沢なことなのかもしれないとも思った。2張りのテントを設置予定との事だが、現地を見た限りまだ余裕があるようなので、好評であれば増設も検討するべきだと思う。

多大な経費がかかる事業となる分、期待も大きく、それなりの効果が必要だと感じた。直接的な売上はもとより、その施設があることによる相乗効果なども考慮して売上に繋げてほしい。

3. 中条共創の森オープンイノベーションラボ (NOiL)

とても新しい建物で（令和6年5月竣工）中に入ると新築の香りがする綺麗で美しい建物であった。

総工費4.8億円だけあってデザイン性も高く、木材を多用した平屋の設計となっている。環境に配慮した施設であるとの説明だったが、環境に特化したと言っても過言ではないほどのこだわりが見え、再生可能エネルギーによる発電を3種類も取り入れており、太陽光発電、小型風力発電、地熱発電を活用し、施設の光熱費の73%をそれらの再生可能エネルギーでまかなっている事実に正直驚いた。

特に地熱発電においては斬新、且つ新鮮さを感じた。地下では平均気温とほぼ等しくなる性質を利用し地下100m（摂氏15度前後で一定温度）まで井戸のように掘り、ホースを挿入して不凍液を循環させ、夏は冷房、冬は暖房に利用している。高气密高断熱の建物でもあることも作用しているのだろう、コートが手放せない肌寒い日だったにもかかわらず、1階多目的室や2階ロフトに座ると床暖房ではないかと疑うような暖かさであった。

一般家庭にも使用できないかと思う一方、初期投資にかかる費用はまだまだ高価であるため、広く安価に利用できるには相当の時間が必要だと知り少し残念にも思ったが、これからの再生可能エネルギーの可能性に明るい希望がもてた。今後は地域の連携もふくめ、大学、環境先進企業、ベンチャー企業、行政と共に新し事業の創出に期待したい。